

氏名	西 井 次 治		
学位(専攻分野の名称)	博 士 ( 医 学 )		
学位授与番号	博 乙 第 2352 号		
学位授与の日付	平成 3 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	甲状腺のマイクロゾーム抗原およびペルオキシダーゼ活性の細胞 内局在に関する超微形態学的研究		
論文審査委員	教授 木村郁郎	教授 辻 孝夫	教授 赤木忠厚

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

甲状腺マイクロゾーム抗体は主に甲状腺ペルオキシダーゼ (TPO) に対する抗体ではないかと考えられている。そこで、各種甲状腺疾患 (バセドウ病, 橋本病, 甲状腺腺腫, 甲状腺癌) の甲状腺組織を用いて、電顕的酵素組織化学的方法にて TPO 活性の局在を検討した。また、モノクローナル抗ヒト甲状腺マイクロゾーム抗体 (TM-MoAb) を用いた間接蛍光抗体法で同一組織での甲状腺マイクロゾーム抗原 (M-Ag) の局在を免疫組織化学的に検討した。その両者を比較検討した結果、両者はほぼ一致しており、甲状腺マイクロゾーム抗原は甲状腺ペルオキシダーゼと考えられた。一部に両者の不一致 (TPO 活性陰性で蛍光抗体所見陽性) を認めたが、その要因として微量の甲状腺ペルオキシダーゼを酵素反応として電顕的にとらえられなかった可能性、または甲状腺癌濾胞細胞では酵素活性の減弱が必ずしも抗原性の減弱と並行しない可能性が考えられた。また、癌組織では観察場所によりあるいは個々の細胞により分化度や変性の程度に差があり、ミクロ的な電顕所見とマクロ的な蛍光抗体所見とに差を生じた可能性も考えられた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は甲状腺のマイクロゾーム抗原およびペルオキシダーゼ活性の細胞内局在について超微形態学的に研究したものであるが、従来十分確率されていなかった同抗体の本態についてモノクローナル抗体による抗原の局在と、電顕的酵素組織化学的方法による甲状腺ペルオキシダーゼ活性の局在とがほぼ同一であることを組織学的レベルで証明し、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。